



「デイケア」だからできること

デイケアでの多様な働き方支援

新座すずのきクリニック：金子 カ

久喜すずのき病院

精神疾患病床・認知症病床：442床
(精神科救急入院料算定病床258床)

夜間・休日問わず
緊急性の高い方を受け入れ
1か月160人前後
入退院している。
非常に回転率が高い病院。

退院後のフォローを継続的に行えるように
各地域にクリニック(地域拠点)ができていった。

すずのき
メンタルケアクリニック

浦和
すずのきクリニック

大宮
すずのきクリニック

草加
すずのきクリニック

新座
すずのきクリニック

訪問看護ステーション

居宅介護支援事業所

復職支援

【新座すずのきクリニック】

開院:平成26年10月1日

※ すずのき系列5番目のクリニックとして開院

院長:石井和夫

1階(外来・カウンセリング)

2階(重度認知症ケア:在宅応援ケア)

3階(精神科ケア:生活応援ケア)

令和4年7月現在 一日平均:50人

主に双極性障害5割・統合失調症3割・その他社交不安・適応障害等

関連(居宅介護支援事業所)



【そもそも精神科デイケアとは・・・??】

- ・ 入院治療
- ・ 外来診療
- ・ 訪問看護



- ・ 就労移行支援
- ・ 就労継続支援

**目指す
生活の実現**

**デイケアは皆さんが「目指す生活の実現」のために
リハビリを行う社会活動の場です。**

リハビリを通して基盤・土台を作っていきます。

【デイケアが目指す生活の実現につながる理由】

目指す生活の実現

基盤
土台

活動の安定

安定して活動を継続できると
やりたいことを継続することが
可能になります。

生活の安定

安定した生活が継続できると
日中の活動につながります。

病状の安定

病状が安定すると
生活は安定していきます。

デイケアの
リハビリ
活動が
3つの安定を
築きます。

【社会活動と余暇活動のバランスが大切】

基盤・土台をより安定し

強固にしていくために

「社会活動・余暇活動」があります。

毎日の生活では、この2つの活動が
バランスよく行なえて初めて生活が
充実していきます。

2つのバランスを考えながら

活動量・活動内容を調整していくこと
がより大切です。

社会活動

決まった時間に
決まった場所で
決まった活動を
安定して行う。
継続して行う。

余暇活動

リフレッシュできる場所

気分転換できる
趣味活動

安心できる環境
家族・仲間



【精神科デイケアの活動】



- 月曜日～土曜日（日曜、祝祭日、年末年始はお休み）
- デイケア（1日利用）9:30～15:30
- ショートケア（半日利用）9:30～12:30 / 12:30～15:30

※放課後プログラムは16:30・復職支援は18:00終了



【精神科デイケアのスタッフ】

- 看護師:2名 作業療法士:2名 公認心理職:2名 精神保健福祉士:1名

※個別担当制ではなくグループ担当制を採用し支援



- プログラム講師:12名

【生活応援デイケア】



9:30 入室開始

検温・体調チェック

10:00 朝の会・ラジオ体操



10:30 午前プログラム

11:30 フロア消毒作業



11:45 昼食(休憩・フリータイム)

12:50 午後プログラム①

14:00 午後プログラム②



15:10 夕の全体会・ラジオ体操

15:30 全体としては終了

→放課後プログラムの開始

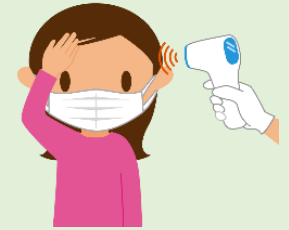
16:30 終了

【復職支援プログラム】

※ 日中は精神科デイケアの活動に参加すること。

14:50 入室開始

検温・体調チェック



15:20 プログラム①

16:30 プログラム②

17:30 個別振り返り・記載

17:45 全体会

18:00 終了



	月	火	水	木	金	土
日付	1	2	3	4	5	6
午前	ガーデニング	書道	心理プログラム	手芸	ペン字美文字	リンパケア
午後①	ケアピラティス	パン工房&茶話会☆ ブルーベリージャムを使って	ヨガ	エアロビクス フットサル:新座	ズンバダンス	元音大生コンサート
午後②	革細工		フリー創作/SST	芸術【歌声サロン】	美容講座	学生のじかん①
放課後	ホビー部				資格部	
復職①	アドバンスα (+面談日)	認知行動療法	生活の振り返り	発想〇〇	認知行動療法	ASD認知行動療法
復職②			QOL向上	(ペタンク)		
日付	8	9	10	11	12	13
午前	QOL講座	絵手紙	体験☆アート	<p style="text-align: center;">お休み</p> 	ペン字美文字	リンパケア
午後①	ケアピラティス	季節イベント すいか割り	夏のボウリング大会 @新座:CKボウル☆		ズンバダンス	椅子ヨガ
午後②	革細工				フラワーアレンジ☆	Caféたいむ
放課後	ホビー部				資格部	
復職①	アドバンスα (+面談日)	認知行動療法	生活の振り返り		お休み	ASD認知行動療法
復職②			QOL向上			
日付	15	16	17	18	19	20
午前	ガーデニング	書道(自習)	心理プログラム	トーンチャイム	OT的健康講座	リンパケア
午後①	ケアピラティス	~夏の自由工作~ ハーバリウム創作☆	ヨガ	エアロビクス フットサル:新座	ジャンボシュー杯	アロマ創作☆
午後②	革細工		フリー創作/就労セミナー	芸術【スクラッチ】	モルック	アイスたいむ
放課後	ホビー部		お昼:うなぎ弁当		資格部	
復職①	アドバンスα (+面談日)	認知行動療法	生活の振り返り	質問タイム	認知行動療法	ASD認知行動療法
復職②			QOL向上	カードゲーム		

- 体力の向上
- 気分転換
- 活動の拡大

運動

- 余暇の充実
- 趣味の獲得
- 気分転換

趣味

デイケア活動を通して
体調・生活習慣を整え
目指す生活の実現に
向けてステップアップ
していきます。

- 仲間作り
- 気分転換
- 参加の機会

イベ
ント

- 自己理解
- スキルアップ
- 自己研鑽

学習

【ケアのリハビリグループ】

＜就労充実グループ＞

- 就労・就学をしている方が対象
- 相談・気分転換が主目的
- 自分の時間を使ってケアを有効活用する

＜復職支援プログラム＞

現在休職中の方が万全の状態での復職を目指す。

＜導入期＞

- ケアに慣れる。
- 体調を整える。
- 生活リズムを整える。

＜就労準備グループ＞

- 就労・就学を目指す方が対象
- ステップアップを意識した時間・体調管理
- 週3日以上のケア参加

発達障害向け

＜集団認知行動療法＞

全8回1クールで実施中

＜生活充実グループ＞

- 生活(体調)の安定・充実を目指す方が対象
- 生活に楽しみや新たな発見を見出す
- 認知機能や身体機能の維持・向上



【デイケアの役割と連携】

近隣病院・クリニック・訪問看護

- 退院後・日中の活動の場
- 医療との繋がり

居宅・計画相談

- 日中の活動の場
- 外出する習慣
- 健康管理
- 本人のニーズの実現

地域活動支援センター

- 1日通しての活動の場
- 昼食

行政（障害福祉課等）

- 本人のニーズの実現
- 1日通しての活動の場
- 昼食

- 医療との連携
- 専門プログラム

自立訓練
(期間は2年間)

- 支援連携

- 体調・生活の安定
- 訓練への土台作り
- ※ 週5日間の活動習慣

就労移行
(期間は2年間)

- 就労訓練
- 就労への連携
- 定着支援

新座すずのき精神科デイ
生活充実グループ

- 生活・体調の安定
- 週5日の日中活動
- 生活に楽しみ
- 趣味の獲得
- 外出・活動の場所
- 居場所
- 認知症予防

新座すずのき精神科デイ
就労準備グループ
(復職支援プログラム)

- 就労・就学を目指す
- 週5日の日中活動
- 自己特性の理解
- 医療と福祉の連携
- 仕事・訓練中の息抜き
- 相談機関・窓口

- 体調・生活の安定
- 訓練への土台作り
- ※ 週5日間の活動習慣

市の就労支援センター
ハローワーク

- 就労への連携
- 定着支援

就労（一般・障害者雇用）

就業・生活支援センター
就労支援全般のコーディネーター

就労継続 A 型・B 型

埼玉県雇用サポートセンター
支援機関と企業をつなぐアドバイザー

【デイケアからのステップアップ方法】

週4日以上を目安とした(デイケア)参加



現状、就労移行での実績がないと就労・就労継続は難しい。

現在、新座すずのきで最も多い就労支援の流れ。

A型もしくはB型から超短時間就労への移行が理想。

週20時間未満の短時間の仕事。模索中の新しい雇用形態。

休職中の方を対象とした新規プログラム

【これから就労を目指す方の見通しと地域連携】

精神科デイケア：生活充実 → 就労準備 → 就労充実

- ・生活リズムを整える
- ・体調を整える
- ・社会性の回復
- ・基礎体力の回復
- ・余暇活動の充実
- ・就労意欲が沸く

就業・生活支援センター(十カポツ)

- ・現状確認・共有
- ・今後の道筋をつける
- ・就労移行の選択
- ・将来的な定着支援

就労移行支援事業所

- ・就労訓練
- ・就職活動
- ・定着支援

働き方も多様化している
(就労場所・形態・時間も様々)

治療段階～定着支援まで継続的な連携と情報共有を図る

「多様な働き方支援」とはデイケアだけではなく、

「地域の支援機関と連携し支援する」という意味です。

当院には当院の強みがあり、各支援機関にも強みがあります。

互いの強みを最大限活用しあいながら支援すること。

それが現在の支援の在り方だと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

